

現代悪魔危機～対象名：
星之火亜美胃～

星星柿

【注意事項】

このPDFファイルは「ハーメルン」で掲載中の作品を自動的にPDF化したものです。

小説の作者、「ハーメルン」の運営者に無断でPDFファイル及び作品を引用の範囲を超える形で転載・改変・再配布・販売することを禁じます。

【あらすじ】

呆れ返るほど平和なププラランド。カービイは新しく出来た博物館に貸し切りで入るが、とある事故で現代地球に彷徨って来てしまった。

※当作品はフィクションです。実在の団体、人物、企業とは関係ありません。

※時系列はデイスカバリー後です。

※ネタバレ注意！

目次

桃色悪魔の現代訪問	1
桃色悪魔の地球冒険譚	4
速報が入りました。	7
悪魔捕獲計画	10
悪魔標本欲望家	13
カービー救出決死隊	16
悪魔に関する報告書	20
奇跡を掴め	23
第二次悪魔捕獲作戦	26
救出決死隊にスカウトせよ	29
決死隊の現代入場	33
悪魔逃亡	37

ニュースと救出作戦開始

カービーを救出せよ！

最終回 夢を見て、ご飯を食べよう。

44 41

48

桃色悪魔の現代訪問

その日は草を風が撫で、鳥はさえずり、大王が昼寝をし、孤高の騎士が修行し、各々が平和的に暮らしているププブランド。；；しかし、そこでそれは起こった。

バンワド「これで完成だ！」

バンダナワドルデイ率いる、ワドルデイ建築部隊はカービイの活躍を記念した博物館を建造した。

バンワド「あ、カービイさん！丁度良いところに！」

カービイ「はあい！」

バンワド「大王様とカービイさんから頼まれてた博物館、出来ましたよ！ここにはコピーの元とか奇跡の実、さらにはコピー帽子やフレンズハートにロボポアーマーの模型、今までの活躍を記録した写真などなど！盛りたくさんの博物館です！大王様は生憎昼寝してしまってますが、；；とにかく見てってください！特別に貸し切りですから！」

カービイ「わーい！」

バンワド「喜んでもらえて何よりです！」

カービイは博物館に入っっていった。

5分後

バンワド「そろそろ奇跡の実エリア辺りかな。あそこには凡そ20本の奇跡の実がありますからねえ。」

バンダナワドルデイがそんなことを言っていると、博物館上空に星形の空間ーデイメンションホールが開き、博物館とそこにあるもの“全て”を吸い込んだ。勿論、悪魔も添えて；、

バンワド「え；、」

????「あーあ、やっちゃったヨ。」

バンワド「この声は！」

そこには青い卵のような形の存在；、マホロアが居た。

マホロア「ローアの点検中ニ不慮の事故でアレ開いちやっタ。ゴメンピ。」

バンワド「カービイさんが；、」

マホロア「ン？」

バンワド「カービイさんが吸い込まれたんです！」

マホロア「；、困ったネエ。ローアを直してもラッタ縁もあるシ；、助けよう！」

バンワド「わかりました！大王様に伝えてきます！」

バンダナワドルデイは城へ向かった。

マホロア「ええと、カービイが送られた場所ハ;;、地球?何か青くて変ナ星。」
カービイ「うわああ!」

カービイは白黒の世界を吸われるがままに彷徨っていた。レンガやら模型やらにぶつからないように。出口が見えてき、その出口に入った。出た先は夜で、木が沢山生えており、何かが焚き火をしていた。何かはアドレーヌに似てる気がした。カービイは取り敢えず焚き火の炎を吸い込み、ファイアーカービイに変身し、バーニングで逃げた。

何か;;、人間1「何だ今のは!」

人間2「火を食べて変身して逃げた;;、」

人間3「追いかけてようぜ!」

その3人はカービイを追いかけてキャンプ場から離れた。

桃色悪魔の地球冒険譚

カービィは何故か追いかけてくる人間から逃げていた。

人間2「待て待て〜！」

人間1「撮影させてー！」

カービィ（さっさえいつてなんだろう？）

そんなことも思いつつ、体に炎を纏い、逃げ続けた。どのぐらい経ったか判らないぐらいのとき、とうとう追いかけてきた人間は居なくなっていた。いつの間にか建物が沢山建っている所に居た。

カービィ（つかれた。）

カービィはファイアを解除し、また歩き始めた。

カービィ（なんか良いもの無いかなあ……）

カービィは護身用のコピー能力を得るための物を探していた。周りの人間が自分のことを見ている気もしたが、放っておいた。しばらく歩き、カービィはお腹が空いてきた。博物館でグルメレースが出来ると聞き、朝から何も食べていないのもあるかもしれない。とにかく、お腹が空いたのだ。

カービィ（ううん、こっちからくだものとかケーキのにおいがする。）

カービィは匂いのもとへと向かった。辿り着いたのは大きな建物だった。看板に文字が書いてあるが、カービィには何て書いているかなど、全く判らなかつた。腹を満たせればそれで良いのだ。カービィは建物に入った。スーパー”AON”に。

「スーパー”AON”」

そこはカービィにとって天国に等しい場所だった。食べ物は沢山あり、大好物のトマトもある。

カービィ「わーい！」

カービィは喜んで食べ物を吸い込み出した。ケーキ、フランクフルト、ドーナツ、リング、牛乳、栄養ドリンク、トマトなど、数えきれないほどにだ。やがて目につく食べ物を食い尽くした頃、カービィは建物を去った。

店員「会計前に商品を食べないでください！」

また追ってくる人間が現れた。しかしカービィはあるものを見つけていた。カービィはそれを取り出し、飲み込むと、横線のフェイスペイントが施され、鳥のような羽を付けた姿、『ウイング』をコピーした。カービィはその羽で羽ばたき、逃げた。今回はカービィが悪いが、

店員「へ、変身して逃げた、!?」

店員は今見た光景に驚きを隠せずにはいられなかった。

SNSでは、

『キャンプしてたら変な生物居たんだが。』

『こいつ炎食ってね？』

『変身もしてるし。』

『CGだろ。』

『AON東京支店店長です。今日謎のピンクの生物が現れて商品を食べ尽くしてしまつたので、しばらく休業します。』

『まじかww』

『エイプリルフールは過ぎてんぞ。』

と、追ってきた人間が撮影した動画などが流れていた。中にはそれをCGと疑った者もいたが。

速報が入りました。

キャスター「速報です。本日午後3時頃、東京都??区にて、未知の生物が現れました。関係者によると、『突然上空から落ちてきて、火を食べて返信して逃げた。』との事で、その後この生物は近隣のスーパーの食べ物を全て食い尽くし逃亡したとの事です。発見者により撮影された動画は、多数の目撃者と実被害により本物と見なされ、命名権が発見者に与えられました。発見者はこの生物を『ホシノカアビイ』、漢字で『星之火亜美胃』と名付け、学名は属名とピンクの悪魔という意味をもつ、『Kaabi Pink Diaboli』とされました。和名の由来はというと、『見つけたとき上に星形の空間があつたんです。その後火を食べる胃の強さ、様々亜種のような姿の変化、美しいピンク色から名付けました。』との事です。警察はこの生物に100万の懸賞金を掛けました。」

そうニュースで流れた。

??「ふうん、今度探しに行こつかな〜」

そう言いながら、??はジャワ島で捕まえた美しい蝶を展翅しながら呟いた。

くっぴりランドく

一方その頃ププブランドではカービーが消えたことに関する話し合いが始まっていた。

パンワード「カービーさんが消えたのって大分不味くないですか？」

デデデ「そうだな、あいつは何だかんだでこのププブランドとかポップスターを守ってるしな。」

マホロア「そうだよネ。前にも支配しようとしたヤツから守ってたシネ。」

デデデ「、、、」

パンワード「ま、まあ、それはともかく！どうやってカービーさんを助けますか？」

マホロア「二応カービーが行った先はわかっているヨ。」

デデデ「お、本当か。ならもう行かないか？」

マホロア「君アホなの？何もわからない星二三人で行く？もう少し人を集めようヨ。」

パンワード「まあそうですね。」

デデデ「でもどうやって集めるんだ？」

「何かあったのか？」

パンワード「あ、メタナイトさん！」

デデデ「実は、カービーが別惑星へ行ったんだ。」

メタナイト「何？」

マホロア「それで今、カービーが行った先へ助け二行く為に仲間を集めようとしたところなんダヨ。」

メタナイト「成る程。私も参加しよう。」

バンワド「有り難うございます！」

デデデ「、、、というかさ、助け要請の為の移動手段が一番の問題だよな？」

バンワド「そうです。」

デデデ「ならローアで良くないか？天かける船のあの異空間ロード渡りで直接救助要請できると思うんだが。」

マホロア「あ、確かニ。じゃあ取り敢えずポップスターで仲間を集めてカラ行こうヨ！」

デデデ「賛成だ。」

バンワド「僕もです。」

メタナイト「私もだ。」

悪魔捕獲計画

キャスター「続いているのニュースです。本日、『ホシノカアビー』の研究の為の捕獲計画が実施されます。『ホシノカアビー』は現在2日間でおよそ1億円相当の食べ物を食べており、それに関わらずいまだに食べ物を求めているとの事です。捕獲には専用の睡眠導入剤が塗られた網を使用して行われるとの事です。」

カービィは沢山の高い建物がある場所を歩いてた。

カービィ(いつばいあるなあ。これだけあつたらひとつぐらいいいこんで『ストーン』になるのもいいなあ。あとそこらへんの『くるま』だっけ?をすいこんで『ホイール』とかほおぼりヘンケイしてもいいなあ。)

カービィがそんな呑気なことを考えていると、突然視界が白の網模様が入った。

人間「対象を捕獲！」

カービィは捕まった。

カービィ(このあみをすいこもう！)

カービィは網を吸い込もうとした。しかし、吸い込めなかった。

カービィ(だめだ！どうしよう！ん？これは！)

カービィは地面に転がっていたコンクリートの破片吸い込んだ。すると、岩のような防止を被った『ストーン』へと変わった。

カービィ『『石ころアツパーカット』!!』

カービィは手を石に変え、勢い良く振り上げ、網を突き破った。カービィは逃げた。

カービィ(『ストーン』をかいじよして『ホイール』に!)

人間「こいつを食らえ!」

人間は網を投げた。咄嗟にカービィは吸い込んだ。カービィは眼鏡と白衣、額帯鏡を身に付けた、『ドクター』になった。

人間「な、なんで寝ない!?!」

それは、薬だからである。薬であれば問答無用で『ドクター』に。毒薬であれば『ポイズン』に。睡眠帽や寝ている動物であれば『スリープ』になるのだ。毒薬の基準は、致死量が少量(10m1位)の物である。

カービィ『『カルテ・インパクト』!!』

カービィは移動技で運良く近くにあったタイヤの元へ行き、『ドクター』を解除して吸い込んだ。すると、赤い帽子を前後逆に被った『ホイール』となった。

カービィ『『ダッシュ』!!』

カービィはピンクのタイヤとなつて走り去つた。

人間「;;、はあ!?!いやいやあんなの捕まえられるわけ無いだろ!」

カービィ(うーん;;、なんでぼくをつかまえようとするのか。ぼくなんかみてもなにもないよ?ただ食いしん坊で『コピー能力』があるだけでふつうなんだけどな。)

現代ではそれは普通ではないことに気づくよしがなく、考えながらカービィは走っていた。

カービィ(どうしたら帰れるかな。)

悪魔標本欲望家

カービイは『ホイール』で逃走し、解除した。

カービイ（ふう、ここにはあのぼうをもつてるひとはいないね。ああ。おなかすいたなあ。どこかにまえあったようなたてもないかなあ。）

カービイがお店を探していると近くの茂みから何かが飛び出してきた。

?? 「いたぞ! 『ホシノカアビイ』が!」

カービイ「うわあ!」

?? 「知能があるのか。それなら自己紹介しよう。私の名前は『天東乾虫』てんとうかんちゆうである。標本を愛し標本に愛された男だよ。」

カービイ「ポヨ?」（ひようほん?なにそれ?)

乾虫は持つてきたゲージにカービイを入れようとしたが外した。

カービイ（アルマパラバみたいな事をするなあ。）

カービイはかつて命が始まったと言う大荒野での戦いを思い出していた。まあ、今のこの攻撃の方が当たったら出られず、抵抗できずに殺されるのだが。

乾虫「クソ! 標本にされる生物のクセに! 人間以外の生物は全て剥製やら標本やらに

される運命だ！」

カービィ（やだな。ひょうほん？になりたくない。）

カービィは必死に避けていた。

乾虫「喰らえ！虫ピンガン！」

乾虫は銃の様な物を取り出したとき、すかさずカービィはそれを吸い込んだ。それを飲み込んだとき、カービィは星形の飾りを付けた帽子を被り、自身の身長ぐらいの大きさの銃を持った『レンジャー』になった。

乾虫「サブウェポンを奪われたか！でもまだある！」

カービィは銃を構え、放った。

カービィ「『ためショット』！」

大きな星の弾丸が乾虫に命中した。

乾虫「2丁目だ！」

カービィはまたそれを吸い込み始めた。

乾虫「またかよ！」

しかし、乾虫はそれを手放さなかった。

乾虫「喰らえ！」

乾虫は引き金を引いた。出てきた針の弾をカービィは吸い込んだ。すると、カービィ

の帽子が目まぐるしく変わり、やがて一つの帽子を被った。黒い角を生やした、『ビードル』だ。

乾虫「虫になりやがった！」

カービィ『『ロケットホーン』！』

カービィは乾虫に近づいた。

乾虫「チャンスだ！」

乾虫はゲージを構える。しかし、

カービィ『『さみだれホーン』！』

カービィの角で滅多打ちにされ、そして、

カービィ『『バックストラッシュ』！』

カービィは乾虫に強力な打ち付けをした。乾虫は気絶した。

カービィ『『ロケットホーン』！』『ロケットホーン』！』

カービィは『ロケットホーン』を連発し、その場から去った。

カービィ（『ビードル』久しぶりだなあ。『新世界』ではいつかいつかわなかつたな

〜。）

カービィ救出決死隊

デデデ「さてと、取り敢えずメンバーを整理しよう。」

デデデはポップスターで集めたメンバーを点呼させた。

デデデ「クラッコ！」

クラッコ「はい！」

バンワド「主に運搬や移動のためですね。」

デデデ「アドレーヌ！」

アドレーヌ「はい！」

バンワド「食べ物や武器を描いて僕たちをサポートしてくれるっす！」

デデデ「タランザ！」

タランザ「はいなのね。」

バンワド「敵を捕獲、操作してもらおうっす。」

デデデ「リック、カイン、クー！」

リカク「はい！」

バンワド「戦闘員っす。」

デデデ「マルク！」

マルク「呼ばれたのさ。」

バンワド「敵を翻弄するつす。まあ信じられないつすけど。(小声)」

デデデ「そしてそして、グーイ！」

グーイ「ぐーい！」

バンワド「敵を補食し、情報を得るためつす。」

デデデ「最後にエフィリン！」

エフィリン「がんばるよ！」

バンワド「もしものための逃げ道を作るためつす。」

デデデ「以上だ！」

マホロア「少いネエ。」

クラツコ「確かにそうだな。」

アドレーヌ「あたし心配。」

タランザ「僕がいればどうつてことないのね。」

マルク「いや、それは無いのさ。」

クー「まあまあ落ち着いて。」

グーイ「おちつき〜！」

デデデ「だからこそ、次は宇宙に出て探す。盜賊団や信仰者とかだな。」
メタナイト「そのぐらいなら十分な戦力になる。」

アドレーヌ「なる程ね。デテの旦那も中々良いこと考えるね。」

デデデ「まあな！」

マホロア「それって僕が考えタやつジャ、」

デデデはマホロアにハンマーをちらつかせた。

マホロア「イヤデデデガカンガエタヤツダヨ。」

アドレーヌ「なんか喋りがおかしいけど良いや。」

クラッコ「それでも行くんですか？」

デデデ「おう。そうだな。マホロア準備出来てるか？」

マホロア「まあ一応最終チエックさせテ。また事故が起コルと怖いから。」

デデデ「分かった。」

マホロアはローアの中に入った。

カイン「ところで何で僕たちを集められたの？」

マルク「確かにそれは聞いてなかったのさ。」

デデデ「実はだな、カービーが別の星に飛ばされてしまったんだ。」

アドレーヌ「それは大変ね。」

クラッコ「まったく、大変だ。」

タランザ「それでカービイを救うためにこうして力のある者を集めたというわけね。」

デデデ「そうだ。」

マルク「つまり今この僕がここにいるやつを殲滅は、」

メタナイト「辞めておいたほうが良い。お前が死ぬことになる。」

マルク「恐ろしいやつなのさ。」

マホロア「チエツク終わったヨ。」

デデデ「それじゃあ、乗り込もう！」

全員ローアに乗り込み、ローアは出発した。

悪魔に関する報告書

日付：2022年?月??日

差出人：??研究長

表題：ホシノカアビイ (Kaabii Pink Diaboli) の観察結果に
基づく生態考察

研究対象について：ホシノカアビイ (Kaabii Pink Diaboli) は
今月??日に突如上空に現れた未知の空間より出現しました。ホシノカアビイ (Kaabi
ii Pink Diaboli) は数多くの擬態のような姿を有しており、本記録で
は、その姿についても記す。

本題：ホシノカアビイ (Kaabii Pink Diaboli) は体長はおよそ
30 cm程であり桃色をした球体を胴体とし、半球状の同色の手、赤い半球状の足を有し、
胴体に直接目、口があります。ホシノカアビイ (Kaabii Pink Diabo
li) は口を開き、強力な吸引を行い、無機物、有機物問わずにありとあらゆる物を食
料とし補食します。この際の補食量の制限は現在まで確認されていません。ホシノカ
アビイ (Kaabii Pink Diaboli) は特定の物を補食することにより

何処からか出現する帽子を被り、生態を大きく変化させます。また、同時に2種類以上同時に補食した場合、帽子が高速で変わり、恐らくランダムで変化します。帽子の種類はまだ不明です。現在確認されている種類については以下に独自で命名し、記載しておきます。

炎型：炎を補食することによって変化。炎を体に纏い、通常よりも速い移動が可能。

鳥型：鳥類及び羽を補食することによって変化。手に装着した羽を使用した飛行が可能。

石型：石を補食することによって変化。手を巨大な石に変化させ、強力な打撃が可能。

医者型：薬を補食することによって変化。カルテを突きだし、速い移動が可能。

車輪型：ホイールを補食することによって変化。桃色のタイヤに変身し、高速で移動が可能。

銃師型：銃を補食することによって変化。手に持った銃から星形の弾丸の発砲が可能。

兜虫型：恐らくはカブトムシ (*Allomyrina dichotoma*) を補食することによって変化。角を使用した滅多打ち、角を突き出した速い移動が可能。

以下は二種類同時に補食したことによる高速変化のうち、種類の判明に成功した物です。

剣型：恐らくは鶴を補食することによって変化。

爆弾型：恐らくは爆弾を補食することによって変化。

水型：恐らくは水を補食することによって変化。

竜巻型：恐らくは竜巻及び風を補食することによって変化。どのよう
に補食するかは不明。

弓型：恐らくは弓を補食することによって変化。

奇跡を掴め

カービイはしばらく道中でコピーした『ホイール』で走り続け、草原に出た。すると、一つだけとても目立った苗があり、そこを中心に人が集まっていた。

カービイ（あれは!!）

カービイもそれに気付き反応した。そしてすぐさま取りに走った。カービイが近づくとその苗は急激に育ち、一つの赤い実を実らせた。

カービイ（ひかりかがやくみ!）

光りかがやく実[;]、通称『きせきの実』である。カービイがそれを食べようとした瞬間、近くの人に取られた。

人「こいつが近づいたら育った[;]、興味あるな。持ち帰って研究しよう!この生物学者、『植動生物学』の名にかけて!」

生物学は実を持ち、走り去った。カービイも『ホイール』で追い掛けた。

カービイ（まってそれすごいせつなの!）

必死に追い掛けるが、新種の発見の興奮で猛スピードで走る生物学には追い付かない。

生物学「よし!後は車で行くだけ!」

生学は車に実を積み、乗ろうとした。その時、

カービィ（『ほおぼりヘンケイ！』）

カービィが車を吸い込み、頬張った。

生学「ぼ、僕の車が、」

カービィは実を乗せた車を走らせ、生学を巻くまで走り去った。

生学「、、あのピンクの生物にも興味が湧いてきた。調べたい。」

何とか巻いたのを確認し、ヘンケイを解除した。

カービィ（みは、、あつた！）

カービィはトランクから実を見つけ、取り出し、食べた。

カービィ（あいかわらずおいしい！）

その瞬間、体が虹色に光輝き始めた。

カービィ（ひさしぶりになったなあ。『ビッグバン』）

全てを吸い込むコピー能力『きせき』とも言えるであろう最強コピー能力『ビッグバン』。家や木を始め、よく刺さってるあれからボス、さらにはボスのHPバーまで何でもありな最強コピーをカービィは手にした。

カービィ（ためしにちよつとだけすいこもう。）

カービィは久しぶりの感覚で『ちよつと』の調整方法を忘れてしまっていた。

キャスター「速報です。東京都??区でビル5棟が消失しました。幸い怪我人、死者、行方不明者は確認されていません。被害者のインタビュによると『普通に仕事してたら突然ビルが浮き上がって、暫くすると窓の景色が宇宙みたいになった。それで10秒ほどして中の人達だけ器用に放り出されて元の世界に戻りました。目の前には『ホシノカアビイ』でしたっけ?が居まして頭を下げて謝っていました。』との事です。政府は『ホシノカアビイ』の動向を引き続き調査するとの事です。」

第二次悪魔捕獲作戦

カービィは『ビッグバン』で少し更地にした場所を歩いていた。

カービィ（うーん、『ビッグバン』はきょうりよくすぎるなあ。）

カービィは土地を見て思った。すると遠くから何か武器を持った人達が近づいてきている。

カービィ（にげないと。）

カービィは走り出そうとしたとき、何か針みたいなのが飛んできた。

カービィ（あぶない！）

カービィは咄嗟的で吸い込めず、避けた。

カービィ（どうしようかな。）

もう一発飛んできて今度は吸い込めた。

カービィ（『スパークニードル』か『コピールーレット』か、；；、『コピールーレット』でいいや。）

カービィはコピールーレットを発動させた。結果はというと、；；、頭には3つの白翼、目の上には青いゴーグル、青の機体とエンジンを着けた『ジェット』となった。

カービィ（うんがいい！）

カービィ『『ホバリング』！』

カービィはジェットパックを利用し空へと高速で飛び出した。

捕獲員1「クソ！また逃げられた！あいつどんだだけ姿あるんだ！」

捕獲員2「でも今回の作戦ではさ、」

捕獲員1「そういやそつか、今回は捕獲用戦闘機が派遣されてんだっけ？」

捕獲員2「そうだよ。これであいつも終わりだな。」

カービィは空高く飛んでいた。

カービィ（これならもうあんしん。）

ところが後ろから轟音が聞こえてくる。

カービィ（もしかして、、『ジェット』ってそっちもつかえるの？）

カービィは慌てて方向転換した。

パイロット「逃がすか！」

カービィの高速な飛行に戦闘機も追い付いている。

カービィ（だめかな、）

そのとき、前から青く、丸みを帯びた戦闘機が来た。見覚えのある、

カービィ（『ロボボアーマー』！なんでここに！）

博物館にはとある英雄が乗ったとされる機械の模型が展示してあった。その模型はある『奇跡の力』を受け、かつての主人との思い出と共に、”蘇った。”

カービィ（いまいくよ！）

カービィは素早くロボボアーマーに乗り込んだ。あの時を思い出しながら。

カービィ（いくよ！）

アーマーは頷く。

カービィ『『ジエツトガトリング』！』

戦闘機は数発受けつつ、巧みに避けていた。

カービィ（なら、；、）

カービィ『『かくさんバスタードミサイル』！』

カービィは沢山のミサイルを飛ばした。戦闘機は避けていたが、弾幕量に圧倒されとうとう命中し、墜落した。カービィはパイロットを救出し、地上に降ろし、飛び去った。

カービィ（おかえり、；、；、；、）ロボボアーマー。もうあえないかとおもったよ。）

救出決死隊にスカウトせよ

マホロア「さて、もうすぐ最初ノ目的地につくヨ。」

デデデ「最初は誰だ？」

マホロア「宇宙をまたにかける盗賊団。『ドロツチエ』ダヨ。」

メタナイト「私が行こう。」

マホロア「ヨロシク。」

メタナイトはドロツチエ団の船に入った。

メタナイト「失礼する。」

ドロツチエ「誰だ？；；、てメタナイトじゃないか。」

メタナイト「頼みたいことがあるんだが。」

ドロツチエ「言ってみてくれ。」

メタナイト「カービィが遠い未知の星に飛んでしまった。救出するために仲間に加わってくれないか？」

ドロツチエ「カービィが？わかった。行こう。その前にこの船をププランドに置きに行かせてくれないか？」

メタナイト「私達の目的を果たしたらププランドに向かう。」

ドロツチエ「わかった。では、ププランドで待ってる。」

メタナイトはローアへ戻った。そして、ドロツチエ団の船はププランドへと向かった。

マホロア「おかえり。そんじゃ、次に行くヨ。」

ローアはディメンションホールを開き、次の目的地へと向かった。

く大魔星マジユハルガロアく

三魔官の本拠地である星。そこにあの後、暮らしているという。

マホロア「確か三魔官がここニすんでるんだよネ？」

デデデ「そうだ。」

クラツコ（三魔官って；；？）

アドレーヌ「へえ。あの三人ここで暮らしてるんだ。」

クラツコ（あ、聞きにくい。）

バンワド「誰が行くんすか？」

デデデ「俺様が行こう。」

デデデは大王星へと向かった。

く数十分後く

デデデ「やっと見つけた;;、ん? あいつは;;、」

デデデは三魔官とハイネス、あとピンク髪のやつを見つけた。

デデデ「あいつは確か;;、スージーか?」

デデデが見ていると、三魔官の内の一人、業火の三魔官、フラン・ルージュが気づいた。

ルージュ「そこでなに見てるんだ?」

スージー「あなたはクローン;;、の素となった;;、」

デデデ「デデデだ。」

スージー「そうそう。」

パルルティザーヌ「お、くちびるペンギン。このスイーツOLと一緒に話してただけだよ。」

キツス「ジヤマハローア。どのような用件で来たんですか?」

デデデ「カービーが遠くの星へ飛んでしまつてな。」

パルメザンチーズ「何? ああ、あつて! ピンクが!」

ハイネス「それはそれは。」

スージー「助けに行きましょう!」

デデデ「それで今仲間を集めているんだ。」

ルージュ「私達も行こう。」

スージー「私も行きます。」

ハynes「すいませんが私はパスでお願いします。この星を守らないと行けませんし。」

デデ「わかった。では着いてきてくれ。」

4人ローアへと向かった。

決死隊の現代入場

ローアがププブランドへと帰還した。

デデデ「うむ。ドロツチエ団もちゃんと来れてるな。」

マホロア「後は『地球』に向かうだけだよ。」

メタナイト「別の星は地球と言うのか。」

グーイ「ちきゅー！」

スージー「地球；；、確か資源が豊富で前に侵略対象星の候補に挙がってた星ですわ。でもゲンジウミンの影響で暑くなって却下されました。」

キツス「暑いのですね；；、私の氷で足りるでしょうか？」

デデデ「足りるだろうさ。」

マルク「ま、最悪僕が貰っちゃえば；；、」

デデデ「辞めろ。」

マルク「へえへえ。」

マホロア「着地するヨ。気を付けてネ。」

ローアは着地した。

ドロツチエ「お、来たか。」

メタナイト「待たせたな。」

エフィリン「もう行くの？」

マホロア「いや、まだダヨ。それぞれの武器と乗り物を用意して。」

メタナイト「わかった。」

メタナイトは飛び去った。

アドレーヌ「と言われてもねえ。」

ルージュ「既に用意してある。」

マホロア「あ、そう？」

〈数分後〉

戦艦ハルバードが到着した。

マホロア「じゃあ、出発するヨ。デイメンションホールを開くから全員乗り物に乗ってホールに入っテ。」

全員好きな乗り物に乗り込みそれぞれが飛び立った。ちなみに比率は、

ローア8 ドロツチエ団6 ハルバード4

となった。

メタナイト「何故私の戦艦は少ないんだ？」

マルク「そりや、よく墜落してるの見てるよ？」

全船はアナザーデイメンションへと突入した。

くアナザーデイメンションく

全船はローアを先頭にアナザーデイメンション内を進んでいった。

マホロア「後少しデ着くヨ。」

デデデ「早！」

マホロア「そりやあアナザーデイメンションだかネエ。」

そして、出口用のデイメンションホールから外の宇宙に出た。

く地球前く

デイメンションホールから外に出た御一行は地球を見つめた。

アドレーヌ「綺麗！」

マルク「ほう、この星も悪くないな。」

ローアが地球に向かったのと同時に他の2船も着いていった。

く東京上空く

ローアらは東京へと向かっていった。その時前からなにかが飛んできた。

マホロア「何だアレ？取り敢えず撃つとこ。」

マホロアが星形弾で撃ち抜き、命中させた。それは爆発した。

デデデ「うお、爆発した。カービイの『ミサイル』みたいな、」
メタナイト「むしろあれがミサイルなのではないか？」

グーイ「たしかにー！（意味はわかってない。）」

そんなこんなで、無事にそれなりに広い平地にそれぞれの船を着陸させた。

マホロア「ここに置いといてもなあ、」

エフィリン「僕に任せて！」

エフィリンが空間移動能力で船をププランドへ送った。

悪魔逃亡

カービィ（まだおつてくる、；；）

カービィは逃げていた。

〜数時間前〜

それは決死隊が来る前。カービィは呑気に歩いていた。カービィ（どうやってかえろう、；；、まだてがかりもみつからないし。）

その時、黒紫の丸いものが目に入った。

カービィ（いまのは、；；、）

カービィには見覚えがあった。

カービィ（シャドー？）

かつて鏡の国で出会ったカービィの分身で、カービィの僅かな悪い心（悪戯する程度）をディメンションミラーが写して誕生した存在、シャドーカービィを見つけた。

カービィ（でもいまは『鏡の国』をまもってるはず、；；、もしかして、；；）

カービィは来た道に戻った。案の定、例の鏡があった。

カービィ（『奇跡の力』が『ディメンションミラー』のもけいをほんものにしたんだ、；；、）

ロボボと同じように。)

カービィは写らないように移動し、鏡を吸い込み、シャボンとして胃の中に入れた。

カービィ(いこう！)

カービィはシャドーを探しに行った。

↳1時間後↳

見つけた。

シャドー(うしし、ひとがとおるところにいしをおいてやるぜ。)

シャドーはコンクリートブロックを置いた。

カービィ(まてー！)

カービィはシャドーを追いかけた。シャドーが石置いた場所を見ずに、

カンカンカンカンカン

↳2時間後↳

カービィは追い詰めた。

シャドー(カービィじゃないか。なんだおまえだったのか。)

シャドー「ぼよぼよ！」(デイメンションミラーあるか?)

カービィ「うい！」(ほらこれ！)

カービイは鏡を出した。

シャドー「ぼよ！」（どうも。）

シャドーは帰った。

カービイ（ふう。このかがみはもういちど割ろう。）

カービイは近くの石を吸い込み、『ストーン』となり、鏡を割った。

カービイ（よし、これでいい。）

そのとき、うしろから警察が来た。

警察「『ホシノカアビイ』！お前を特定生物として捕獲する！」

カービイ（にげなきや。）

カービイは逃げ出し、現在へと至る。

キャスター「速報です。東京都??区で脱線事故が起きました。脱線後、車両は近く
のマンションと衝突し、マンションの一部が倒壊しました。マンションの住人を含む死
者324名、重軽傷者103名、行方不明者が1名の被害が出ました。原因は線路にコ
ンクリートブロックが置かれる『置き石』によるものであり、付近の監視カメラから『ホ
シノカアビイ』による犯行と断言されました。政府は『ホシノカアビイ』を特定生物と
し、捕獲を警察に命じました。以上、速報をお伝えしました。『ホシノカアビイ』を見か

けた人はすぐに110番を。」

ニユースと救出作戦開始

キャスター「速報です。東京都??区上空から謎の飛行船が3隻飛来してきました。落下予測地点には大きな船が着陸した跡が残されており調査が進められております。宇宙に詳しい専門家によりますと、『あんな船を作る技術力を持った生物は見たことも聞いたこともない。誰かが目立つたために行ったフェイクかなんかであろう。』とのことですが。しかし予測地点からは謎の成分を持った金属が発見されており、『今まで否定されていた宇宙人が実在していたかもしれない。』という声も上がっています。また、『ホシノカアビ』との関係性があると考えられており、『ホシノカアビ』の捕獲研究が急がれるとのことです。」

決死隊は山の中を移動していた。

デデデ「それで、カービィは何処にいるんだ？」

ドロツチェ「チューリンやスピンにも探させてるがわからん。」

アドレーヌ「もしかしてもう捕まっていたり;;」

マルク「そんな訳無いとは思うのサ。」

アドレーヌ「そうかな;;」

スージー「きつとそうですわ。カービイならきつとうまく隠れながら逃げてるに違いないわ！」

アドレーヌ「そうよね！」

マホロア「うーん;;、なんか奇跡の力とかヲ感知できる装置無かったカナア;;」

デデデ「そんな都合よくないだろ。」

マホロアはエフィリンに何処かに繋いでもらい、何処からか部品とかを取り出した。

マホロア「こんだけあれば作れるヨ。」

マホロアは高速で部品を組み立て、そして、我々で言うゲーム???のような見た目の装置を作り上げた。

マホロア「これでよし。あトはアンテナを伸ばせば;;、よし成功！カービイの居場所が分かるヨオ！」

マホロア達は向きを変え、カービイの方へと向かい始めた。

マホロア「カービイの居場所を特定したヨオ！後は向かうだけだヨ！」

決死隊の士気は上がった。

（10分後）

決死隊は遂にカービイを見つけた。

決死隊「カービイ！」

皆でカービイを大声で呼んだ。

カービイ「はあい！」

そのとき後ろからカービイが籠に入れられた。

アドレーヌ「カービイ！」

カービイは連れ去られた。

人「ふうう、やつと捕まった。さ、後は生態研究とかなんやらするために研究所に持ち帰るんだな。」

その人は車にカービイを乗せ、車を走らせた。

メタナイト「エフィリン！準備を！」

エフィリンはデイメンションホールを作るための準備を始めた。

カービィを救出せよ!

エフィリンがホールを開くまで時間がかかる。

デデデ「タランザ! 足止めをしてくれ!」

タランザ「了解。」

タランザは蜘蛛の糸のようなピンクの魔法糸を車に絡めて、動きを止めた。それから数秒してホールが開き、荷台の中に繋がった。

デデデ「今助けに行くぞ!」

デデデがホールに入った。

マホロア「待って!」

マホロアは気づいた。デデデのあの巨大な体格は重量を伴ってすることに。そして、車は物凄く後ろに傾いていた。

マホロア「だから今言ったの二。」

でも、デデデはカービィを籠ごと連れてきた。

バンワド「カービィさん!」

アドレーヌ「お帰り!」

カービィ「ぼよ！」（ただいま！）

カービィと皆は再会を喜んでいた。

??「動くな！」

しかし、周りには大勢の武装した人と、白衣を着た人物が居た。

??「初めましてと、お久しぶり。僕の名前は植動生物学。シキョウシキマナ。前回はよくも車を奪ってくれ

たなあ、ピンクの生物。今回は周りの生物もろとも、お前を捕獲する！」

武装人が近づいてくる。絶体絶命と思われたそのとき、小型隕石が武装人の目の前に

沢山落とされた。

生学「何だ！」

上にはまあまあ大きめのホールが開き、その前にはエフィリンが飛んでいた。

エフィリン「よし、皆！やっちゃって！」

メタナイト「感謝する。」

バンワド「ありがとうございます！」

プププ軍が猛攻撃し始めた。

デデデ「お前も行くぞ！」

デデデは自慢のハンマーで籠を壊し、カービィを解放した。

タランザ「ついでにこれを喰らうのね！」

タランザは虹色輝く実、『きせきの実』を投げ、カービィは食べた。そして、『ビッグバン』へと変身した。

マルク「吸い込むのさ!」

カービィは大きく口を開け、吸い込んだ。

人「うわ!何だこれ!」

武装人はどんどんと吸い込まれていった。

パルルティザール『レア・エレクトロエクレア』

キツス『シエイキング・ソーダ・スライダー』

ルージユ『ファスト・オーブン・ウエルダン』

三魔官もそれぞれの特技を繰り出し、敵を殲滅していた。

生学「く、ここは戦略的撤退!」

生学は逃げようとしたが、;

ドロツチエ「待ちな。」

生学「ひ!」

ドロツチエが驚かして足止めし、そして、

タランザ『タランザウエブホールド』!」

タランザが魔法系で拘束した。そして、その頃になると敵軍も全滅していた。

カービィ（かった！）

カービィは例のダンスを踊った。

デデデ「疲れた、」

マルク「あつちも捕獲成功してるし、こんなもんで良いのさ。」
皆、勝利後の疲れで座っていた。

最終回 夢を見て、ご飯を食べよう。

カービィと決死隊は皆、アドレーヌが出した物を食べていた。

デデデ「うむ。前よりも美味しくなってる。前のも旨かったが。腕を上げたな。」

アドレーヌ「ふふ。ありがとう。」

スージー「このアイスもこれも全部美味しいわ！」

皆、アドレーヌの食べ物を絶賛していた。

バンワド「そういえばカービィさん。こっちはどんなことをしたんですか？」

カービィは現代での思い出を語り出した。

カービィ「ぼよ！ぼよぼよ！」

バンワド「ふむふむ、『一杯食べたたり、ビツクバンになったり、戦友と再会できたよ！』
ですか。」

カービィ「うー、ぼよ！はあい！」

バンワド『でもたまに僕を捕まえられそうになったり、きせきの実を奪われたり大変
だったなあ。でも楽しかった。』ですね。」

カービィは頷いた。

デデデ「よく分かるな。俺様でも一部しかわからないのに;;」
バンワド「ふっふっふ。実は博物館の展示品の紹介文をカービイさんでも読めるようにするためにカービイさんの言葉を解説、習得したんです。」

デデデ「でもカービイで普通に文字読めなかつたか？」

バンワド「はい;;、でも習得するまで全ワドルデイが気付かなかつたんです;;」

デデデ「優秀なのかドジなのか;;」

↳ 数十分後↳

外での食事は終わりを迎え、プププランドに帰る時になった。

エフィリン「じゃあ、船を出すよ！」

エフィリンは全員の船を出し、皆は船に乗り込んだ。

マホロア「さ、そろそろ行こうかな。」

ローアが発すると、それに付随するように他の2隻の船も飛び出し、ローアが開いたデイメンションホールに入っていた。

マホロア「いやあごめんネ。カービイ。」

マホロアは今回の事を謝った。

カービイ「ぼよ！」

カービイは許した。

〈数分後〉

カービー達はププブランドに着いた。

マルク「あーあ、着かれたのさ。」

タランザ「ま、たまにはこういうのも悪くないのね。」

ルージュ「では、我々は帰らせて貰う。」

スージー「私も仕事が貯まっていますので。」

元々ププブランドの住人じゃないルージュなどはドロツチエの船でそれぞれの住居などに帰っていった。

バンワド「さて、改めまして、」

皆「おかえりなさい！カービー！」

ここは呆れ返るほど平和な星、ププブランド。この日、この星を平和で穏やかな星にしている勇者が帰ってきた。勇者は今日も昼寝をし、お腹が空いたらご飯を食べる。そんな日常を送りなおした。博物館はその後再建が進み、各地から展示品を集めなおしているという。

〈完〉